

令和5年度 卒業証書授与式 式辞（令和6年3月1日）

例年になく少雪の冬も終わりに近づき、山の麓の木々、街中の木々はその新しい芽を膨らませています。そして、少しずつ強さを増す日の光も、既に春が近づいていることを感じさせます。本日ここに、保護者の皆様とともに、新潟県立長岡高等学校 第76回卒業証書授与式を挙げるにあたり、同窓会長 柳 和久 様、親師会長 土田直久 様、後援会長 巻淵文彰 様をはじめ、ご来賓の皆様には、ご多用のところご臨席を賜り、卒業生、教職員ともに、心から厚く御礼申し上げます。

ただ今は、普通科236名、理数科75名の皆さんに、卒業証書をお渡ししました。卒業おめでとう。心からお祝いをいたします。今日の卒業は、皆さん一人一人のたゆまぬ努力の結晶であるとともに、日々支えてくださったご家族、苦楽を共にした友達や先生方のお陰でもあります。お世話になった方々への感謝の気持ちを忘れないでください。

振り返れば、皆さんがここで過ごした3年間は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた3年間と言えます。1, 2年生の時には部活動や学校行事の多くが制限を受けながらの実施となり、ストレスもたまったことでしょう。それでも3年生になってからは、基本的な感染症対策は継続しつつも、体育祭、和同祭は一般公開で行われるなど、本来の長岡高校らしくなってきました。授業や課題研究、部活動、学校行事熱心に取り組む皆さんの姿、和同会執行部が先頭に立って行事を進めていく姿が目には焼き付いています。

皆さんと同様に、社会情勢や自然災害で、いわゆる通常の高校生活を送れなかった卒業生は数多くいます。しかし、どんな高校生活であったとしても、皆さんにとっては、多感な時期を、かけがえのない仲間と過ごした大切な時間です。長岡高校での思い出を胸に、ここで出会えた仲間たちをこれからも大切にしていきましょう。

さて、長岡高校を卒業する皆さんへの饒として、これから2つの話をします。

1つ目は、言葉を大切にしたいということです。

先月から、日曜日の夜にNHKで、「舟を編む」というドラマを放送しています。辞書の編纂へんさんに携わる人たちの物語ですが、新人編集員が、何気なく発した言葉によって誤解を受け困っているときに、先輩が言った次の台詞が強く印象に残っています。

『不思議ですよ、言葉って。どんなに尽くしても何一つ伝わらない言葉もあれば、たった一つの言葉で千も万も伝えられることもある。全く意図していないことを言葉が勝手に伝えてしまうこともある。でも、この世に悪い言葉は存在しませんよ。』

これを受けてもう一人が次のように話します。

『全ての言葉には、その言葉が生まれてきた理由があります。誰かが誰かに何かを伝えたくて、伝えたくて必要に迫られて生まれてきたんです。悪いのは言葉ではありません。選び方と使い方です。』

日々私たちは、言葉を使ってコミュニケーションをとっています。自分の気持ちを正確に伝えることの難しさを感じる人もいるでしょう。同じ言葉でも、相手によって、また、時によって、場所によって相手の受け取り方は違うものになる。では、どうしたらよいか。もちろん、言葉一つ一つの意味を正しく理解していなければなりません。でも、それだけでは足りない。相手のことをよく知る、そして相手を思いやることが大切ではないかと私は思います。慌てる必要はありません。急ぐ必要もありません。相手を思いやってしっかりと言葉を選び、誠実に気持ちを伝えるようにして欲しいと思います。

2つ目は、長岡高校の卒業生であることに自信と誇りを持って欲しいということです。皆さんが1年生の時に行われた長岡高校創立150周年記念式典の式辞で、私は本校同窓である井上円了の漢詩を紹介しました。

「庠^{しょう}舎^{しゃ}は遠く市を離れ 更に塵事^{じんじ}の喧^{かまびす}しきことなし
月光天宇を照らし 秋気書軒に満つ
朝^{あした}に講ず安民の策 夕べに究む富国の言
英雄他日に出でて 威勢^{けんこん}乾坤を圧せん」

「校舎は遠く市を離れたところにあり、その上俗事の喧噪もない。月光は天空を照らし、爽やかな秋の気は書殿に満ちている。朝には民を案ずる政策を講じ、夕には国を富ます言説を考究する。いつの日かここから英雄が生まれ出て、その威勢は天地を揺るがすであろう。」

この漢詩を詠んだ井上円了は、明治7年に本校に入学し、後に東京大学で哲学を学び、現在の東洋大学を創設しました。本校が生んだ「英雄」の一人と言えるでしょう。

明治7年といえば、まだ明治維新後の混乱にあり、新政府から次々と新しい政策が打ち出されていた頃です。この漢詩からは、これからの日本を支えていこうという高い志を持つ若者が長岡校で育っていたということが読みとれます。それ以来、長岡高校は百五十年にわたって多くの有為な人材を輩出してきました。皆さんには、そういう学校で学び卒業していくことを誇りに思ってもらいたい。そして、皆さん一人一人が、自分の可能性を信じ、次のステージで専門的なことを学び、技術を身につけ、それぞれの分野で活躍することを心から期待しています。頑張ってください。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。本日、たくましく成長されたお子様の晴れ姿を目にされて、喜びもひとしおと存じます。皆様には三年間、本校の教育活動に対しまして、陰に日向に、ご協力をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。大変ありがとうございました。

結びに、卒業生の皆さん一人一人が、それぞれの世界に向けて力強く旅立つ、その前途に幸多からんことを心から祈念して、式辞といたします。

令和6年3月1日

新潟県立長岡高等学校長 鈴木 勇二